



指導主事だより

なんだか うれしい

教育委員会

相談時間等

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話0267-56-3131 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話0267-56-1076 (呼)
- 立科町児童館/
午前11時50分～午後1時40分
電話0267-56-0248 (呼)

(担当 指導主事 中島一彦)



※写真と文章の関係はありません。内容は中島の教員時代の実践です。

10倍、 たのしい

「学校、楽しい？」掃除の時間、ふと投げかけた問いに、R君は迷いなく答えました。「保育園も楽しかったけど、小学校の方が10倍楽しいよ。」

その言葉の明るさの奥に、私はまだ知らない“何か”があるように感じました。

掃除をしながら、ゴミを掃き集めていた最中の会話でした。

6年生が黙々と清掃に取り組む姿を、R君はじっと見つめていました。

次の瞬間、彼はチリトリを手に取り、勢いよく駆け出してきました。

中島の足元に積もった土とゴミの山に、小さな手をそっと添えます。添えたかと思うと、一気に押し入れ、またしゃがみ込み、今度は小さな手で土を驚づかみにして運び出す。その動作を、何度も、何度も繰り返してくれました。

気づけば、大きなゴミの山はあっという間に姿を消していました。どろだらけになったその小さな手が春の土の匂いをまとめて、なんともいとおしく思えました。

「小さな手で、自ら役割を見つけ、果たそうとする1年生の思い」とは、いったい何なのでしょう。それは、集団の中で起こる出来事を、自分の中に引き寄せようとする“命の意志”のように思えます。仲間との出来事も、先生との出来事も、すべてを自分の成長の糧にしようとする、静かで大きな意志。

「10倍楽しい」と語るその言葉の背景には、その意志に寄り添ってくれる仲間や先生が確かにいるという、子どもなりの充実感が息づいているのかもしれません。

「教えれば子どもは育つ」そう信じてしまいがちな私たちですが、本当に問われているのは、子どもの中にある大きな意志に、どれほど寄り添える“教師の私”であるかということなのだ、R君の小さな手がそっと教えてくれた気がします。